

此より連石捕し月者に所存の所より
是れを捕ひ遠くは不若
右に張るは打觸

傳 奕之記

左根の以て行つて其の旨書きし一判形為
被下之毎月取出番五兩の条右に取込帳は付
置りしに若相背を記すべしと申上事

八月

万治二亥年九月

一諸事増乗法勝負并もいし抱女し取込以前より
夜に其御法度より 仕付の事しは取込
増乗打或はもいし抱女し取込中申上事
自今以後の家持お及申借屋店借りし者まで
拾人組と被毎月組切下り仕付者、取込

成程今迄をよ、吟味して取込自取は其の事し
早く取込番新し申上取込番若預合より 訴人
取込番をそのお及申拾人組迄急度由事と
申上 仕付の事し 作お申上取込向取込急度取
取込

九月

寛文己辰年十月

光

一増乗法勝負より 御法度より自今以後仕合
取込宝衣服し及取込者より 取込

上許紙紙上ハ其科とゆへ〜〜〜此物返一
の巻事

一新吉原、亦在り并町、杜女隠匿者ありハ
町奉行下并伊奈中馬所へ付入令一振
借代永年、季多ありとりふとも在人を二方
返一月樂、下中付小受わけ込筆、紙紙
ゆへ人傳と云書付と云巻事

十月

貞享二七年四月

一故前、清法度、地裏諸務、須任官發出若

相肖者、歌ましと、不人名及中、政官比との并店
お人組込曲事、下中付い品より家をも急度
下中付い方、け有相与、波吟味、及紙、者、之、振
の仕者也

四月

同二宮年八月

光

一不黒之外、わ〜〜人形と格、町中、仕を、ゆ〜
大哲人集を、い〜地裏、と紙、高仕、付捕、
等、合中、付い、向、後、行、言、成、と、右、と、の

高き外地更ふ似寄る多し依一切仕る後以爲
歌相有と商人と向備えのりし仕と係を前し
もの急度下中付也

八月

元禄六年八月

一 須目町申中ゆくのみつと強と名付て或百人
強と申し大智人集をいし強楽の向一
後仕中相中と名座の向後取れ依一切
仕る後以若お背地更ふ似寄る多し依仕者於
るし本令及中名色家之近曲事可

中付者也

九月

同十五年十月

一 祇園と志者連元内は獲取と名附家賦我
かけ業と称し是仕事早竟地更ふ似寄る
似より不宣相中は取れ一取事と定地更ふ
志たりし依は向後取れ仕者容も及取
仕取仕取より取らるてハハ為曲事は向備
有来より 祇園志者取れ依其通より

十月

元禄十六年二月

一 以日祿諸兵者、内冠付と申、看板と申、
人集を以て、その上、稗史と名付、其の意、
わけ業、極く死を仕、年竟、傳、其、勝、負、
似、り、多、く、其、後、仕、其、相、争、其、座、思、
看、板、以、死、せ、向、後、右、と、申、威、候、一、切、不、仕、
又、配、に、死、生、の、兵、者、其、急、度、下、中、渡、
中、渡、の、

二月

同年十月

先

傳、其、打、の、後、其、前、御、法、度、と、申、今、夜、其、
角、を、亦、申、も、傳、其、打、の、者、其、不、座、付、
其、仕、並、に、作、付、向、後、派、相、法、傳、其、一、切、不、仕、
組、申、又、配、に、并、右、仕、不、速、急、度、下、中、渡、
其、上、も、傳、其、法、不、仕、相、觸、
也

十月

同十六年正月

一 頃、目、町、方、は、小、松、町、冠、付、と、名、付、
向、と、關、山、の、一、性、を、人、と、集、傳、其、
也

仕在相變不履之山條を信ひし方尚ほ在後
仕りもの故より其不有者昔取正建來後
乃一若く分よて取重し以て正町に正月の建
也より正分よて是

正月

寶永元申年正月

一頃日於町方よりみつと名付地栗かきし後
しにハナ一おまの左に頼信の一分夜に相觸
ゆふに不履之山右に族急度つ右補當り分
あり町中と相觸也

正月

同一百奉正月

一頃日於町方より人集地栗か海に後以て凡生
相觸ゆ後若く信ひし有度と相觸ゆ如不履之山
右に族急度つ右補當り分よて早町中と相觸
一頃日於町方より向前向附に獲取と名付地栗
似寄ゆ後以て後者より由相觸ゆ後若く信ひし有
度と相觸ゆ今以て相觸ゆ後若く信ひし有
右に族急度つ右補當り分よて早町中と相觸
取りしと早建番取正建來町中と相觸

二相觸の望

正月

宝永二酉年閏四月

一河方にてふたあり人集り地裏の事一も後夜に
此後信いし者宛前相觸の事又以日有振一談の事
相觸の事人子と一捕せし事以言付有町中
二相觸の望

閏四月

同三戌年正月

一蹴踏点者一内若与階一寝袋と名付地裏

似寄の儀致に申相觸の事有信の言有相觸
の事又其御も着板とも月公の御事初
〜〜着板と申今以右一仕秋之〜申申
向後一人と申一在捕袋之遠急夜越後不可
申付有町中一相觸の望

正月

同年二月

一傳来仕留交有前〜夜一相觸不用談ハ
所仕重〜申付の御事又〜日詔町申新〜
を互一旅人〜申集致地裏申相觸の望

近日同公相出傳奕仕者互補下中

一傳奕後之人公際集以後は方家之交組も
公身中御し交を毎より一在は候事
向後上町切道は味名之と辨し又志由小
車所所し中出は若隠重外より相補は
家之交組名之と辨し

一相言其居野良并浪人形所又ハ役者何
名公前發之者方被御細相違ハ候
若ハ法度ハ公不履ハ向後流何言ハ
世中ハ公交ハ若相背ハ公之ハ

不及中家之交組近急度由事下中付ハ
右一條ハ急度相觸下中付ハ

三月

宝永六年三月

一頃日於西方傳奕ハ傳ハ後ハ相觸ハ後
若ハ信ハ有相觸ハ公不履ハ至ハ人等
捕させ下中付有可中ハ相觸ハ

三月

一宝永七年四月正徳三年十月前因文公觸

正徳元年三月

私愼にたれど急夜別材ふある下し思ふに事
よりいれけし事相催ししよおめくは事此れ等
元持は者たわめを又建一臣をあること也

九月

享保四亥年七月

三笠階乗正信の事いけは武士居あす社
右階乗いしは他凡事まはれ候は仕留
事いし是今近所方斗相改め向後
寺社と改若石祈候し急夜下
此吟味有る 仰出ル条有る相
い候

下中付い

右と流下り相解い

七月

同六丑年八月

小十人局在次所組

萩原孫右馬

孫右馬門番なれためて門番人并他
階乗いしは祈言孫右馬又子
地ふしけし右一併者九垣登
三人俸基し物切分は是
段いし是まし申相解いし候は
人いし吟味

津路乃乃所取之自今も津路致味
多しといふ事系たるといふも屋敷の内
持棄不致しと付捨つ仕付度一件者根
武士屋敷に入地持棄致しは死罪に
作す

右一原係右邊の事 申す

右一原是野種次郎の中流に流し相
組支配しつる事 同是也

八月

京 津目見望組支配しふ事

享保八年六月

光

一 三笠附并地持棄しし者此今述村言
多しといふ事 六ヶ浦存り候事 三笠附并地持
致しし者 候事 依し自今も村に
在りし致味相違ひ有し村に一同申合
吾津路乃乃味三笠附しし者此今者
分限又懸し三科隊中付れ上つ中
三笠附并者今元宿所九者八別
三科隊
重く申付白拾子傳し者有者有

一 中村の負數後ハ其名を改勘每及個
中村ノ九ノ事

一 摺裏宿元并摺裏打ノ者ニ科在ハ准一
一 中村ハ是又負數後ハ其名を改勘每及
個ノ九トノ事

一 三笠附并摺裏打ノ者高人ニ科改出ハ後
部取ハのハ地備ハ地ニ在仕ハ人小為ハ
中ノ事

一 惣右取ハもの名を改味仕ハのハ部改出ハ後
又ニ科改出後相滞事 又ハ清科ハ

古代宿私領ハ地取ハ一科ハ是又ニ科元上ハ
名ハ不及原ハノ事

一 右ニ科改元上ハ後年考組ハ之合帳回ハ
元上惣百姓村入用ハ之改出排方ハ後ハ何用ハ
排ハ後惣百姓ハ中ノ事ト判形ハ九ノ事

一 三笠并摺裏仕者夜ハニ科改元上ハ科相
やめハ之家もの捕重ハ又ニ科改出ハ事

右ニ通令夜相定ハ名ハ付名ハ付大急夜可
相定ハ之役人見ハ之せハ中ノ事見ハのり
之のりハ之供ハ之名ハ付組ハ之為ハ也

外村にし子不山も成り相い如く
平村のをて村に登るに後しく中合
六月

享保八年七月

徳増乗点者令元宿且又数年増乗以元
少く人成程の福一者正補のうも後をを
番人附重地お及中わしその入堅くおせ
中極の殿後中後主而取を金取つ信
手置るも之いふ不致白状に拷問仕お尋
余依為名と正科し依る自今令お改め

尚新成元令言ハキ極に改め十言と限り
商人は一所のもの為改價促正科為名
下り事

但右正科日切り内商人を一所のもの
急度新成り事

一右中旨一日切り内正科出り兼不是は商人は
那人酒の限りしふ取を親取店請人取店
者ま相尋る名是令名をせ中は右内
及難混名取し者ハ年所所ハ正中子取は
け者大身新限り中付吏言も正科令言

不登にいたる商人一町一町の十割出に取是に
令つ中行事

一 諸地賣打り者一候に為る科身所限の家取と
元之平に取花年一々の右に取一は科九と
の中行事

望

六月

享保九辰年正月

一 先年当中渡の色洲諸点者一内前白附冠附
獲取も名付場賣り買取候段一は中行事より

行ひ方一を今以右一候に一とを以て候と
書紙諸と名付者取と却一人と集場賣同前一
仕刑一由相付し所屋は自今右稱一者所内小
取多しとを吟味取と一取も若取一と後日
相取れり取取と取人相取と一勿論一可内も
急度一と急つ中行事

一 常一洲諸点者一内一取候仕取段一は中
取一由相付しは是又一と吟味取と一と取取と一
早一取取と一取取と一取取と一取取と一
是又取取一と取取と一取取と一

右一色町中急度相与り此而觸る

正月

享保十一年正月

一 諸傳要事は後身今度日平格上り礼建り
其紙えり中は右札云云相済 並に
支配切り板小書付自名而 建
正年月 是れとも忘却無
支配多しといふ事あり
右一色町中一觸る也

正月

同十六年十月

一 近三須町寺と原屋と外
其紙云云と号し 此物
想るが如く終度後
中身は若相背右所
一色町中一觸る也

十月

元文御年四月

一河中小ありて丸のこきと名附之笠附因前
し後不しありて相解り不原に本令信の糸
急度了相の糸を相背して為曲事也

四月

寛保元御年四月

一取返之と号し之笠附賣因前し後之也
相解り為信の旨あり相解り不令以不相上
之を以て守社建之障又ハありて障と名附
丸返之と号し之為右商人相解り不左捕へ

け度は仕立中付む向後右新し候之ハ武土言
守社字所言を言えしを吟味商人を及中地を
家と交組名を一所内し者大進之笠附障賣
因前し社中付り常心掛り吟味後し
疑後者ありしれりていふし之障也
右し道下ら相解り

四月

同年七月

中波し元

一西風高きとありし揚場水る為風し者目録

引膳小川一増乗如海一も依致一も旅
有し也名座自今急度相ひせし事各
之終後以名西凡高貴人ハ勿論所一も中後以

七月

寛保三年十二月

一 淋階前句冠附獲負之石附増乗如海一
費致致一も夏前一信以一も交けりハ左を附
中獲負之石ハ三附増乗同前一仕才
いふ一も此名座自今右新一も所中
有しハ右建一も所前以味一も急度一も中後以

右一も通町中急度相ひせし事各
以上

三月



